

おしえて！あなたのワザとアイディア 特別編

# 子供と楽しくワザあり菜園！



左から、たかぴー（7歳）、まいぴー（9歳）、はる一と（16歳）  
あーちゃん（11歳）、まなみん（14歳）（愛知県知多郡武豊町）  
自然農法歴：遊び中心で年に数回おじいちゃんの家家庭菜園やお父さんを手伝う程度

76号で紹介されたあーちゃん（あー）&まいぴー（まい）。

知っているおじさん・おばさんから「見たよ、読んだよ、かわいいね！」と声を掛けられて有頂天に！

一方、普段からおとなしい、はる一と（はる）、まなみん（まな）、たかぴー（たか）たちにも畑の楽しさを知ってもらいたいと思うお父さんの願いを受けて、みんなで休みの日に畑にやってきました。今日はどんなワザとアイディアが飛び出すのでしょうか？



まい「あーちゃん、あーちゃん、春の畑とゼンゼン違うね。」

あー「ねえ、お父さん！

春に咲いていたシロツメクサ（白クローバー）やタンポポはもうなくなっちゃったの？」

父

「日本タンポポの花は春にしか咲かないんだよ。秋でも咲くのは西洋タンポポで9月の終わり頃にならないと咲かないかな。」

あー「なーんだ、つまらないな、前号ではタンポポの花冠をつくって遊んだのにね。」

父 「ハイ、それじゃ、始め

どんな道具を使いますか？ その1

## コツ・ワザ・アイディア 大募集！

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、病虫害対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイディアを募集しています。技術普及課（0569-89-7643）までご一報ください。



収穫後に畝を放置する、あるいは次作準備のために耕して畝をつくり、一雨あてる、もしくは散水すると3日から1週間で畝の上には植物が芽を出す。その植物に聞いたことはないけれど、ある種の使命のように土を覆って土や生物を守ろうとしているように感じる。後から植えられる野菜の苗よりも先に育っているのに、人はその植物を雑草と総称して取り除こうとするけれど、この雑草と争うことなく野菜が大きく育つ土にしておくことこそお父さんが目指しているところなんだよ！

るよ。畝の上をよく見てごらん！  
 何が見える？」  
 たか「あつ、何かいっぱい生えてるけど、これ野菜？」  
 はる「それは野菜じゃなくて、ふつうは雑草っていいですね1。」  
 父「そう、雑草が正解。では、ここで問題です。ここに草を取るときに使う道具を四つ用意しました。雑草鎌、ねじり鎌、ダイヤモンドヤスリ、草取りホー。さあ、みんなに道具を選んでもらって、どのように使うのか実演してもらいましょう。じゃ、道具を選んでね。」

皆「オッケー！」  
 父「たかぴーは雑草鎌か2。はるーとはねじり鎌か3。学校でも使っているんだらうな。まいぴーはダイヤモンドヤスリか4。この選択はウケねらいか？ あーちゃんは草取りホー5。いい勘してるな。まなみんなの草取りホー5は順当だな。」  
 まい「お父さん、これ、ぜんぜん切れないよ？」  
 父「そうだね、それは鎌やハサミや包丁の刃を研ぐ道具だからね。」  
 まい「じゃあ、わたしは間違えたの？本気で選んだのに！」

子供というのは実にユニークだ！自分の知っている事と想像から道具を選ぶ。大人になるまでにたくさんの経験をしておくれ！

父 「本気だったのか……。」まい  
ぴー以外はみんな正解。ただし、  
今回は草取りの正確さと時間の  
短縮を考えると、草取りホーを  
選ぶのが一番正解です。使い方  
は竹ボウキのような使い方<sup>6</sup>と  
引いて草の根を切る使い方<sup>7</sup>が  
あるから、やりやすい方法で使  
います。それでは、この畝の草  
をキレイにしてみましよう。」

父 「草が残ってるけど、いいの？」  
まな 「たかぴーもつと頭をつかっ  
ちやんとしなさい。草取りホー  
は草の根を切る道具よ。刃の部  
分で草の根を切るのよ。」

父 「根っこを切られた雑草は、水が  
吸えなくなつて乾燥して枯れる  
んだよ。だから、草取りには土  
が乾く陽がよくあたる時間帯が  
いいんだ。雨が降つたり夜露だつ  
たり、土が濡れると雑草は生き  
返り、根付いてしまふくらい、  
雑草って生きる力が強いんだよ。  
生きるタメの生命力は本当に強  
いよ。みんなも雑草のようにた  
くましくなりなさい。」

父 「わたしは弱くても、華麗なバラ  
がいいわ。」

## どんな道具を 使いますか？ その2

父 「それでは次の問題いくよ。畝の  
表面を平らにしてください。ど  
うやって平らにするか？ わか  
る人！」

まい 「ハイ、ハイ（手を挙げる）。板  
を乗せて踊る！」

まな 「それは前号（76号）の畝をつくつ  
たときの話でしょ。」

父 「確かに、ゴツゴツの土の塊があ  
るときや、耕したばかりでふわ  
ふわ過ぎるときには平らになる  
のでいいけど、今回は、土をふ  
んわりと仕上げたいから板は使  
いません（それに踊るのではな  
く歩くだけだね）。この道具の  
中から選んで、キレイな平らに  
してください。」

父 皆 「はーい！」

「たかぴーはアメリカンレーキ、  
はるーとは熊手、まなみんなはト  
ンボか。確かにトンボ<sup>8</sup>は一度  
に広い幅に対応できるけれど、  
力の入れ方が難しいから、使い  
慣れたベテランでないなら平らに  
するのは難しいね<sup>9</sup>。アメリカ  
ンレーキは土の塊を砕きながら



くま手を裏返して使えば畝をキレイな平らにするのも簡単。使い方でも用途多様です。

トンボは凸凹になりやすく、土も寄りやすい。

皆 「均すことができるけれど、少し重いよね。その点、熊手<sup>10</sup>は軽くして、しかもすき間を調整することができ、裏返して使うと誰が使ってもキレイな平らになるよ<sup>11</sup>。みんな、やってごらん。」

皆 「ほんとだ、キレイな平らになるね！」

父 「最後はニンジンのタネまきだ。次の畑へ行くよ。しゅっぽーっ！」

皆 「しゅっぽーっ！」

### 畑の土と生きものの関係を知ろう

父 「タネをまく前に大事なことを教えるよ。その枯れ草をめくって見てごらん<sup>12</sup>。どうなっている？ 何が見えるかな？」

たか 「えーと、土がぬれてる！<sup>13</sup>」

父 「その土を手にとって、見てごらん<sup>14</sup>。何か気づいた人？」

まい 「なんか団子みたいにコロコロしてるね。」

はる 「ミミズです。ミミズは土と一緒

にバクテリアや微生物を食べ、腸内の粘液で土をくっつけて糞として出し、それがコロコロ団子になって養分もたくさん含ま



たか 「?????へー。小さな土の団子みただけどね。」

はる 「枯れ草の下は夏は涼しく、冬は暖かく、湿り気があって、目に見える生きもの（ヤスデ・ダンゴムシ・ミミズなど）や目に見えない微生物がたくさんいるんです。草や虫の死骸が分解すると土の原料になり、土の乾きと湿りを繰り返して、植物の根の圧力（凝集）や微生物の出すネバネバ物がノリの役割をして小さな土の粒がくっついたら、おにぎり状の団子状になっていくんです。教科書には団粒構造と書いてあります。」

父 「そう、そう、そんな感じだよ。ほら、ここを見てごらん。上の方の黒くて団粒状の土は作物を育てるのに適した土で、穴の底の少し光って見える土は粘土なんだ<sup>15</sup>。粘土は粒が細かくてすき間（空気）が少ないから、根が伸びにくいんだ。それで雨が降ると水がたまって根痛みをおこしてしまっただよ。」

はる 「だから、農家のおじさんは、根を深く張る植物を育てたり、草

などの堆肥たいひを使って土を軟やわらかくしたりして、水はけのよい土になるように改良かくりようするんですね。虫や微生物の働きも重要じゆうようですが、普通の教科書には載のっていないませんし、この粘土で野菜を育ちやすくするのは大変たいへんなんですわね。」

まな 「何言なにってるのかさっぱり分からないわ。ところでお父さん、この土が粘土かひだったら、常滑焼じょうなとかの焼き物にもできるの？」

父 「できるよ。お父さんの仲間なかまが、この粘土かひでヘンテコな顔かほ（自画像みづかみ？）**16**をつくって机いしに置き、芸術げいじゆつだ！ といつて毎日鑑賞かんしょうしているけどね。まあ、粘土細工かひこぎができる土つちということだよ。」

たか 「それなら、ぼくも粘土かひでキレイな泥団子どろだんご**17**をつくつたし、おじいちゃんもEMの泥団子どろだんごをつくっているよ。」

父 「粘土かひの泥団子どろだんごとEMの泥団子どろだんごはちよつと違うかな？ そういえば、まなみんの幼稚園ようちえんの作品さく品に、ヘンテコなウサギと雪ゆきだるまの粘土細工かひこぎ**18**があったよな。」

まな 「お父さん、違うよ。あれはササンタさんとトナカイだよ！」

父 「も、もちろん知しってるよ。ちよつと言いい間違まちがえただけだよ（汗あせ）」

はる 「ねえお父さん、この畑はたけにはバツタ、コウロギ、クモ、カエルかえるがたくさんいますね。」

父 「おっとナイスなタイミンたいみん」

グ。ほんとに、いろんな虫むしがいるよね。特に多いのは、テナントウムシ、コモリグモ**19**、ツチガエル**20**かな。テナントウムシはアブラムシを、コモリグモは葉はつぼの虫むしを、ツチガエルはいろいろな虫むしを食べて丸まる々まるまるしているよ。」

まい 「あつ、トンボだ。しつぽを黒いビニールびにールに何回なんどもつけてる。何なにやってるんだらう？」

はる 「ギンヤンマ**21**ですね。卵たまごを産うみつけようとしてるんじゃないですか？」

まい 「えつ、卵たまごを産うむの？ トンボとんぼって水みづに産うむんでしょ？ でも水タマリみづたまりはないよね？」

はる 「ギンヤンマは水辺みづべの植物しょくぶつに卵たまごを産うみつけます。たぶん、太陽たいやうの光ひかりがビニールびにールに反射はんしゃして水みづがあるように見えるんです。トンボとんぼのメガネめがねですから。」

まな 「ホントだ。ビニールびにールって、キラキラして水みづがあるように見えるね。ところで…あーちゃん、なにしてるの？ 忍術にんじゆつの練習れんしゆ？**22**」

あー 「違うよ、トンボとんぼがこの指ゆびに止とまるから静しずかにしてよ！」



**16**畑はたけの土つちで粘土細工かひこぎ **17**企業けいぎやが主催しゆさいする光ひかりるどろだんごづくりで自作じやくさくした作品 **18**まなみんの幼稚園ようちえんの頃の力作りきさく、サンタとトナカイ？

あー 「違うよ、トンボとんぼがこの指ゆびに止とまるから静しずかにしてよ！」

精神統一しんしんとういつ！トンボよこの指ゆびにと一ひとまれ。



ギンヤンマ。水辺みづべの植物しょくぶつに卵たまごを産うみ、ヤゴやごは水中みづなかで育そだつ。



ツチガエル。穴あなを掘ほって身みをかくし、虫むしが近ちかづくと素早すみやくく食くべる。



コモリグモ。あてもなくうろうろ歩あき回り、虫むしを捕食とくじくする。



ニンジン畑を草だらけに  
しないワザとアイデア

たか 「お父さん、はやくニンジンのタネをまこうよ。さつきは草が生えていたけど、この畝には草が生えていないよね？」

父

「おっと、そうだった。この畝は太陽熱を利用して草が生えないようにしたんだよ。方法をわかりやすくいうと、この畝に土の中の生きもののエサを混ぜて、水を十分にかけ、大きなラップをかけたんだよ。そうすると、土の表面温度が高く（60度にも）なり、雑草の芽が枯れて草が生えないようになるんだ。もちろん、地表2cmより下はちよつとあたたかいくらいで深いところに逃げた生きものには影響はないんだよ。そうしておけば、ニンジンの畝に雑草が生えにくいし、土はニンジン育てる力がでてくるんだよ。」

父 皆

「それじゃ、先にニンジンのタネをまく溝をつくるよ。これから、この直管という鉄パイ

プ（園芸用の支柱でも可）の上を、バランスをとりながら最後まで歩くことができるか、やってみてもらいます<sup>23</sup>。みんな、バランスがとれないときは手をかしてあげてね。」

父

「まず、お父さんが手本をみせるから、よく見てね。……ごらん。1本のタネまきの溝ができました。この両サイドに1本ずつつくって全部で3本つくってください。」

たか

「おもしろそう。ぼくにもやらせて！」

まな

「でも、どうして鉄パイプを踏んで溝をつけるの？ 棒や尖ったもので溝を掘ればいいのに。」

父

「それはね、この畝の地表は太陽熱で草が生えなくなっているだろう！ だから土を掘ってしまおうと下のほうの生きているタネが土の表面に出てきて草だらけになるから、土を掘り起こさないように気をつかっているんだよ。」

まな

「なるほど。お父さん、結構、考えてるんだね。」

## ニンジンの発芽を良くする ワザとアイディア

父 「それじゃ、みんなでタネをま

くよ。左手にタネを少し乗せて、右手の親指と人差し指でタネを少しつまみ、5mmから1cm間隔でハラハラとタネをまいてね<sup>24</sup>。」

あー「タネちようだい！」

皆 「こつちにもちようだい！」

あー「わたし、本当はニンジン嫌いなんだけどなー。」

はる 「ぼくはカレーの中に溶けていたら食べられます！」



自然農法育成品種「筑摩野五寸」。粘質の土では皮がゴツゴツすることがあるが、少ない養分でゆっくり育つと甘みのある、香りのよいニンジンになる。

たか 「ぼくは好きだよ、スティックで

食べる<sup>おま</sup>と甘くておいしいもん！」

まい 「でも、苦いのもあったじゃん。」

まな 「お父さんが食べさせてくれる

甘くておいしいのは自然農法のニンジンで、ちよつと苦いのは他所で買ったニンジンなんだよ。私たち子どもが実験台<sup>だい</sup>になっているし、自然農法のニンジンなんだから、おいしくなくちゃ困る<sup>こま</sup>けどね。」

父

「自然農法は生きものいっぱい<sup>ほ</sup>の畑で育つし、タネも違うからね。自然農法のタネは味にこだわり、少ない養分でも育ち、病気や虫害にも強いという特徴があるんだよ。」

まい

「へー、同じニンジンでも同じじゃないんだ。ふしぎだね？」

父

「ふしぎタネー、タネだけに。でも違う家で育った子と君たちは違うし、同じ家で育つていても君たち兄弟はそれぞれ違うだろう！ 似ている所もあれば、まったく違うところもあるだろう？」

たか

「確かに。まいぴーは自由に育ったからおもしろくて変だし、あーちゃんはまいぴーと

いつも一緒にいてとつても優しいし、まなみんははるーと

には優しくても僕にはすごく怖いし、3人ともゼンゼン違

うなー。」

まな 「たかぴー、お姉ちゃんは優し

いでしょ！」

たか 「そ、そつ、そうでした（……）」

まい 「お父さん、できたよ。」

父 「それじゃー、土をかぶせるよ。

この芝土<sup>しばつち</sup>を使います。タネには光を好んで発芽するタネと、暗くしないと発芽しにくいタネがあります。ニンジンのタネは光を好むので土は薄くかけてください<sup>25</sup>。だいたいタネの厚さの3倍の土をかぶせるんだけど、今日は5mmくらいの厚さにしようかな？（3mmというときつと薄くまきすぎ

るだろうから）。みんなで分け分けてやってね。土を右手につかんで、少しずつグーをゆるめて砂時計のように細くしてタネにかぶせます<sup>26</sup>。」

父

「タネをまいたら、最後にこの不織布<sup>ふしよくふ</sup>をかけます<sup>27</sup>。どうしてこの白い布をかけると思う？ わかる人！」



芝土は粒子が細かく、保水性があり、土をかぶせたところが一目でわかるので扱いやすです。



ニンジン<sup>24</sup>は初期に競い合わせて育てるので、少し多めにタネをまきますが、多すぎると間引きが大変になるので注意が必要です。



芝土を握った手をゆっくりゆるめるのがコツです。

まい 「熱すぎないようにとか？」

父 「ペンポーン！ 正解です。芽が出始めるとココロギ、バツタ、ダンゴムシなどに食べられることがあるので、その対策です。では、他に、どんな効果があると思う？」

たか 「どうして？ 虫に食べられないため？」



子供の力ではパッカーをはめるのは難しいですが、足で片方ずつ踏むことで簡単にはめることができます。



父 「さあ、不織布を掛けたら鉄パイプに柵を巻き付けてこの水色のパッカーに当て布をして

父 あー 「へー、そんな役割があるんだ。」

父 「さあ、不織布を掛けたら鉄パイプに柵を巻き付けてこの水色のパッカーに当て布をして

父 「水をかけすぎてもいけないよ。ニンジンの発芽は土が違えばやり方もかわってくるし、雨が強く降ると雨水でタネが流れてしまうのを防ぐためにも、この布が役にたつよ。」

まな 「おじいちゃんがニンジンの発芽が良くないといっていたけれど、そういえば、土が乾いていたんだ。お父さん、おじいちゃんの畑に水をまいてあげればよかったのに。」

父 「その通り。ニンジンは発芽までは水を切らさないように特に注意し、その後も葉っぱが7枚になるまでは土が乾燥しないように水をあげると、順調に発芽してニンジンが育つんだよ。」

はる 「これも正解だよね！ この時期は太陽の光が強く、熱すぎるから太陽の光を遮ってやると、温度が上がりにくくなり、土が乾くのを防ぐんですよ。お父さん。」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

父 「みんな、ありがとう。(……) あーあ、予定の3分の1しか終わらなかった。1人ならとくに終わっていたのに、子供に教えるということは……」

まな 「じゃあね、お父さん、お昼だからわたしたちは帰るね！」

はる 「今日は、充分にお父さんサービスになったと思うから、もういいですね。」

はる 「今日は、充分にお父さんサービスになったと思うから、もういいですね。」

まい 「あつ、12時だ！ おなかすいたから帰ろう。」

父 「ピーピ、ピーピ、ピーピ(アラーム音)。」

父 「ピーピ、ピーピ、ピーピ(アラーム音)。」

父 「ピーピ、ピーピ、ピーピ(アラーム音)。」

まい 「お父さん、もう少し水を出して。あー気持ちいい！」

まい 「お父さん、もう少し水を出して。あー気持ちいい！」

父 「それじゃ、最後にこのチューブを不織布の上において水をあげるよ。」

父 「それじゃ、最後にこのチューブを不織布の上において水をあげるよ。」

父 「それじゃ、最後にこのチューブを不織布の上において水をあげるよ。」



タネまき1週間後には発芽がそろい、数週間後には間引き菜を家族みんなで美味しくいただきました。



仕事の後の一杯は格別においしい！ あーちゃん私にもちょうだい。



この大きな葉っぱでトトロをやってみたかったんだ。